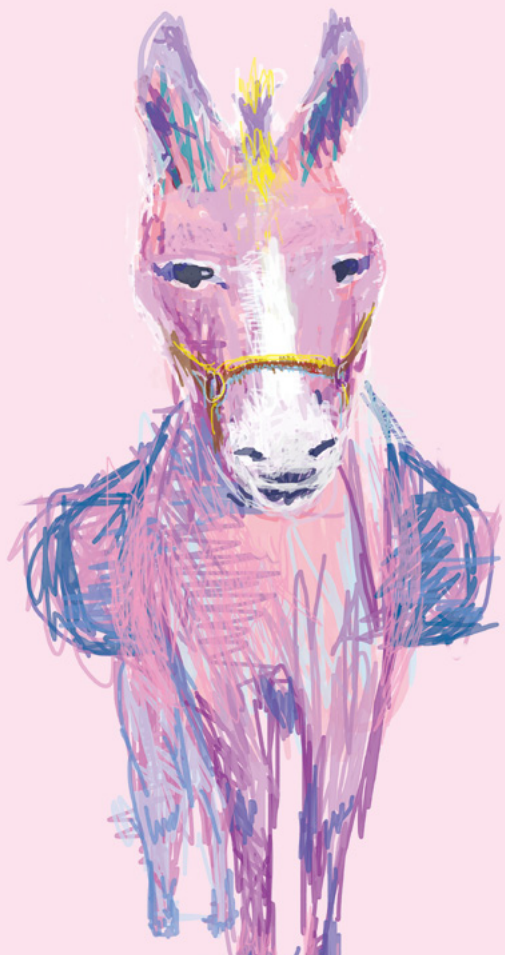
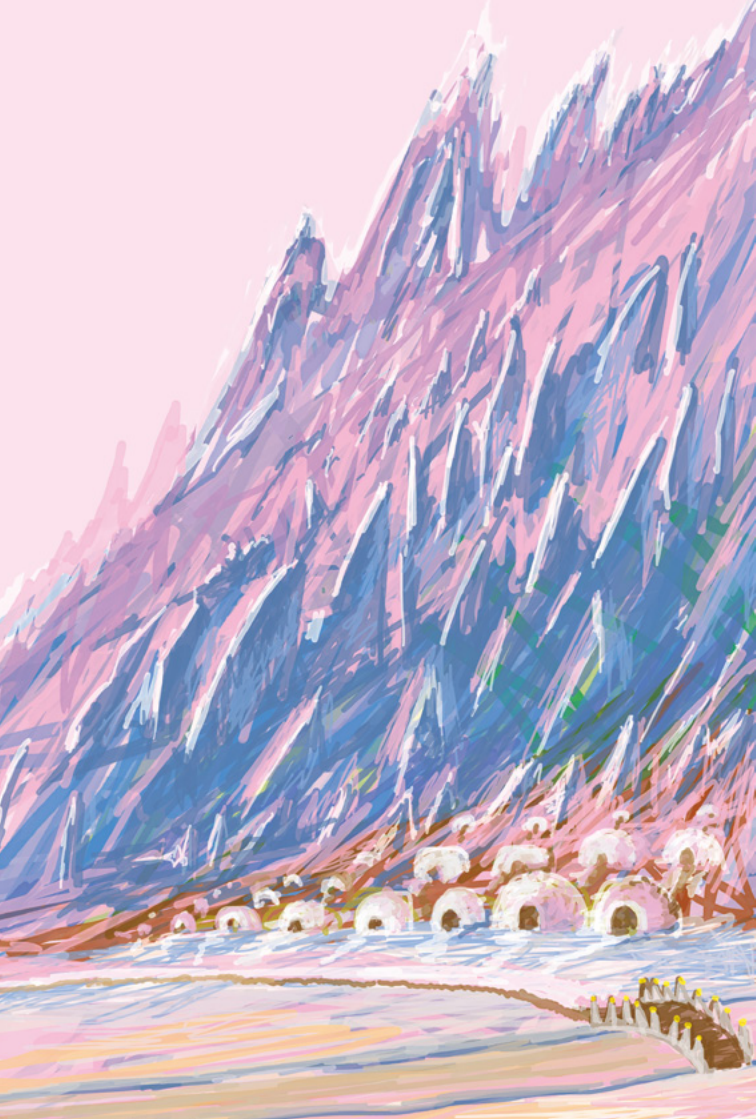


ロ
バ
の
バ
ロ

作・絵

オ
カ
タ
ラ
タ
カ
オ





遠い昔、深い海だったのが信じられないくらいのも
乾燥した谷でした。

谷底のウムシ川に水が流れることはなく

赤錆色の井戸水は塩辛くて飲めませんでした。

ピンク色の岩塩はいたるところにあったので

夕方になると、山は赤く光りました。



ロバのバロは岩塩を選びました。

アラカラ谷を下り、三角のヒイラ山を登って、
毎日とりの町まで行きました。

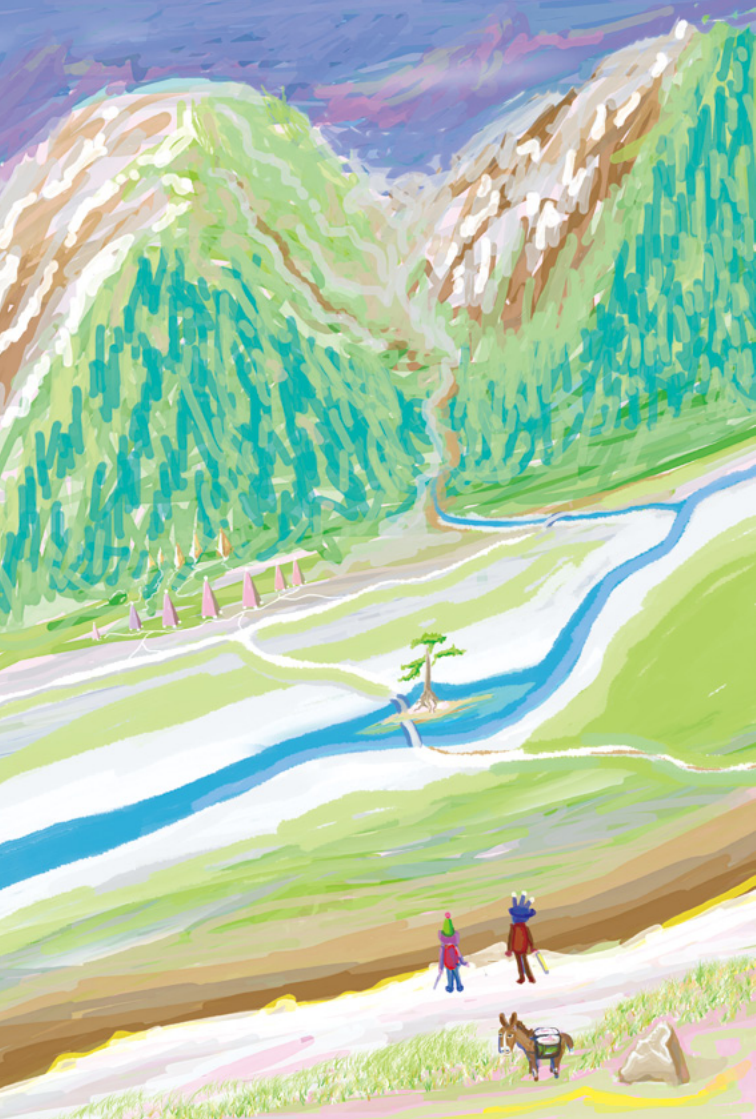
バロはいつも同じ場所で止まりました。

親方がムチで打っても、どなっても、バロは動きません。

親方はまたかとおきらめて、タバコを吸いました。

トルッキはバロの首をさすって、少しだけ水を含ませました。

しばらくして、バロは歩き出しました。



となりの町には大きな川がありました。

水の色は毎日のように変わりました。

透명한水の時も、濁った水の時もありました。

バロは水を載せて帰りました。

水を持って帰ると

アラカラ谷ではお金になりました。

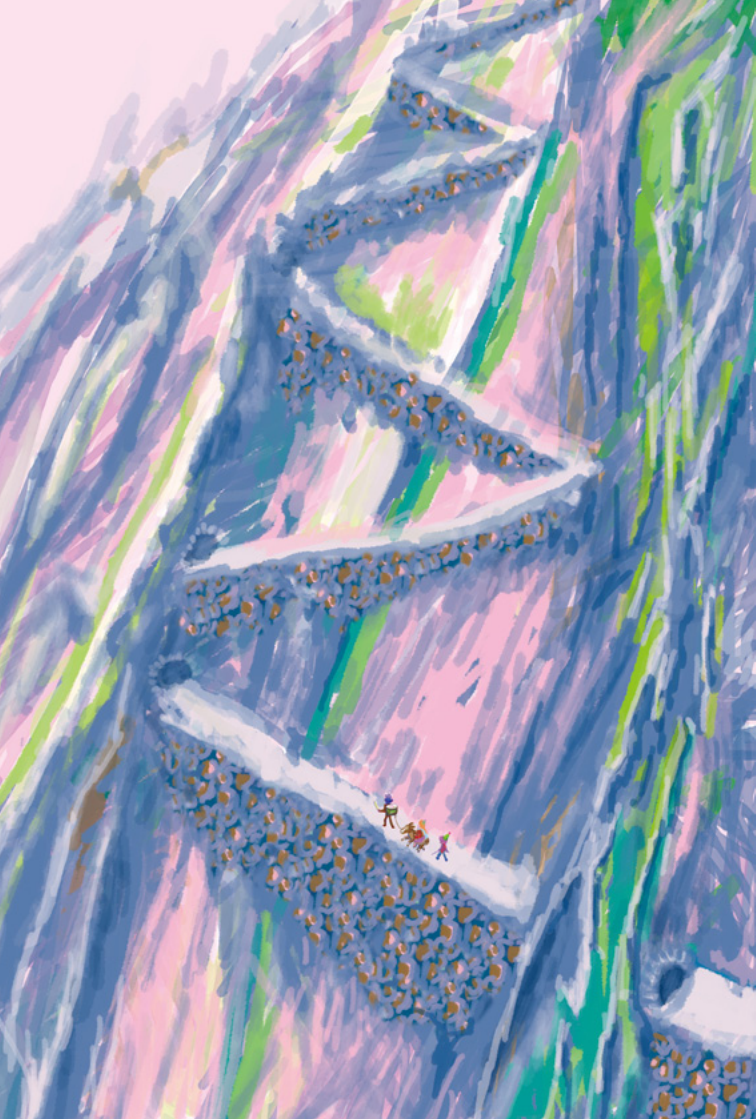


家に帰ると、少しだけ水を飲んで、
干し草を食べました。

おばあさんは歌いながら、
ブラシをかけてくれました。

歌が終わると、

パロは空にむかってオーンオーンと啼いて、
大きな顔をぶるぶると振りました。



ある朝、おばあさんが倒れました。

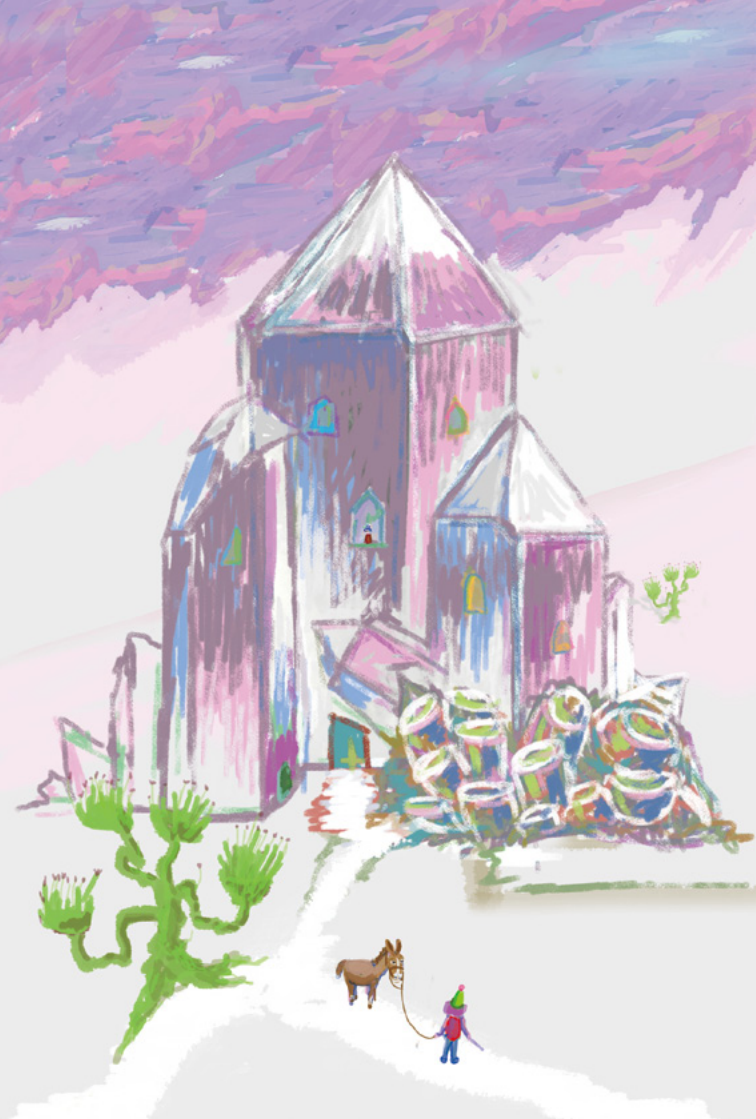
胸が苦しいようでした。

となり町に行かないと病院がないので

バコにのせて行くことになりました。

親方は塩を背負って、トルツキはバコを引いて

病院に向かいました。



パロは止まりませんでした。
となり町にはいつもより早くつきました。
親方は病院に塩を渡し、
トルツキとパロは先に帰るよういわれましたが
パロはなかなか帰ろうとしませんでした。



次の日からトルッキとバロだけで塩を運びました。

バロはまたいつもの場所で止まってしまいました。

鼻を地面につけて、

くんくんとしきりに匂いをかいでいました。

トルッキは持っていた棒でそのへこみを掘ってみました。

土の色が緑色になるまで掘っても何も出て来なかったのですが

棒の先が湿っているのに気がつきました。

しばらく掘ると水がでてきました。

すこし甘い水でした。

次の日から

バロはいつもの場所で止まると水を飲みました。
飲んだら歩きだして

病院のある角でまた止まります。

トルツキは病院にバロを連れて行きました。

バロが鼻を見つけたとおばあさんに言うと

おばあさんはバロをほめてくれました。

バロは大きな声でオーンオーンと啼きました。



トルッキとバ口は話をしながら帰りました。
ヒイラ山はふたりの話を聞いていました。
まわりの岩も参加していましたが
あまりに低いゆっくりとした声だったので
トルッキには聞こえませんでした。

おばあちゃんが言っていたんだ

あかい岩はドンケいろ オーン

むかしはいろんな色の岩があつてね

にがい岩はくさいくろ オーン

いろんな味がしたんだって

すっぱい岩はまっさお オーン

そこから出た水もいろんな味だったって

おいしい岩はちやいろ オーン

どんな味だったのかな

あまいのほみどりいろ オーン





「おばあちゃんもおじいちゃんみたいに死んでしまうの?」「そうだね。おじいちゃんにまた会えるかねえ」「死んだらどうなるの?」「神様のところに召されるんだ」「めされるって?」「神様が世界をお造りになったのは知っているだろ?」「うん、岩をこねて作ったんでしょ?」「そう、神様はいろんな色の岩で山も海も植物もお造りになった。ついでに動物も造ったら世界が動き出した。なにやら下界がにぎやかなもんだから、近くで見てもたくなつたんだよ」「近くで?」「いくら神様でもこの世界のすべてを見ることはできないからね」「いそがしくなってしまうね」「それで、この世界をぜんぶ見るために人をお造りになつたんだ」「へえー」「見た事をぜんぶ神様に届けるのが人の役割なんだよ」「おばあちゃんもめされたら、ぼくのこととかぜんぶ忘れてしまうの?」「そうじゃないよ。見た世界をぜんぶ憶えるなんてできないだろ?」「うん」「人は忘れたと思っても、身体の奥に大事にしまつてあるのさ。見てなかったことも聞いてなかったことも、忘れたと思つていてもぜんぶ」「ほんとうは忘れてないんだ」「憶えたことは自分のもの、忘れたことは神のもの、って、ばあちゃんも、おばあちゃんから教わつたんだ」

*Published by 1938 books and products. Copyright © 2019 Takao Miyahara

Mail: miya@1938.jp URL: <http://www.1938.jp>

2-9-27#3B, Minami-Aoyama, Minato-ku, Tokyo, 107-0062, Japan

phone: 03.34.01.05.04 facsimile: 03.34.01.05.14

No part of this publication may be reproduced without the written permission of the Publisher.